



*ThreeBond*



2020

# JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND. 1

## RACE REPORT



TWIN RING MOTEGI

**HONDA**

**YOKOHAMA**

**BANDERO**  
DRINK RESPONSIBLY

**KOE**



**KS Material.co**

**NGK**  
SPARK PLUGS

**QMI**  
beyond the invisible

**3M**

**KAJIMA**

**FUJI XEROX**  
富士ゼロックス多摩株式会社

**idemitsu**

**Swift**  
Spartan

**ODYSSEY**  
Ultimate Parts

**KRS**  
KTEL RACE SERVICE

**WPC**  
METAL SURFACE TREATMENT

**SHIBA**  
Performance Parts

**TONE**

**SP**  
SP AIR



**リボバンド**

**BOSS**  
COFFEE

**STRASSE**  
RACING



**PATRICK**

## 2020年 新たな挑戦!

スリーボンドレーシングは、これまで23年間自社開発エンジンでシーズンを戦ってきた「全日本F3選手権」がそのシリーズの終焉とともに、日本最高峰カテゴリーである「全日本スーパーフォーミュラ選手権(以下全日本SF選手権)」へと戦いの場を移した。

新カテゴリーを共にするのは、2016年に欧州F3選手権から国内復帰するにあたって協力体制を築いた道上龍氏率いる「DragoCORSE」。SF選手権出場にあたっては両者の強みを活かし、ドラゴコルセがレースオペレーション全般を、一方スリーボンドは同シリーズを活用したプロモーション全般を統括するコラボレーション体制とし、エントリー名も「スリーボンド ドラゴコルセ」での船出となった。チームメンバーもF3選手権から移行した者が多く、チーム監督に道上龍氏、トラックエンジニアには伊与木仁氏、データエンジニアに渡邊信太郎という布陣だ。

新たなシーズンを迎えるにあたって多くのドライバー候補のなかから、同カテゴリーに新たに挑戦するにあたり、政府の「女性活躍推進」や世界自動車連盟(FIA)の推進する「Woman in Motorsport」の理念に則り、SF選手権史上初となるコロンビア人女性ドライバーのタチアナ・カルデロン選手を起用し、企業メッセージを世間に強く発信する決断を行った。カルデロンは3月の富士合同テストで初めてチームに合流、SF19・HONDA/M-TECに乗り走行した。その後、一旦スペインへ帰国し、新型コロナウイルス感染拡大に伴い再入国が危ぶまれた。しかし、在スペイン日本大使館との交渉が実り、開幕出走が実現した。

## 公式予選

新型コロナウイルス感染拡大を受けてシリーズ開幕が延期されたが、関係各所の努力が実り、様々な感染予防策が敷かれ、「全日本SF選手権 第1戦」が、ついに8月27日(木)~30日(日)ツインリンクもてぎ(栃木県)で開催された。

富士合同テスト以降、同マシンでの走行ができなかったため、開幕戦は木曜日から練習走行セッションが設けられた。ツインリンクもてぎは真夏の天候となり気温、路温が上昇するなか、カルデロンは初めてのコースを習熟するところから始めた。今シーズンは、公式予選と決勝レースを日曜日1日で行う変則スケジュールで、チームは土曜日に決勝レースを想定したロングランテストを行い、日曜日に備えた。

日曜日午前8時から行われたフリー走行で、チームはニュータイヤをマシンに装着して予選タイムアタックのシミュレーションを行い、午前10時25分からの公式予選B組セッションに臨んだ。

今回レースにエントリーした19台の車両は抽選でA組、B組に分けられ、カルデロンはB組10台の1台としてセッションに出走した。B組からは上位7台が公式予選Q2へ進出できる規則だが、タイヤのウォームアップがうまくいかなかったカルデロンのタイムは直前のフリー走行で記録した自身のタイム1分33秒133にも及ばず1分33秒227の10番手に終わり、Q2進出はならずスターティンググリッドは19番手と決定した。

## 2020年チーム体制

タイトル	氏名
チーム監督	道上 龍
トラックエンジニア	伊与木 仁
データエンジニア	渡邊 信太郎
プロモーションディレクター	足立 守

## ドライバープロフィール



氏名: タチアナ・カルデロン  
 出身地: コロンビア ポコタ  
 血液型: RH O<sup>+</sup>

## 予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#20 平川 亮 1'31"083
2	#4 サッシャ・フェネストラス 1'31"396
3	#5 山下 健太 1'31"535
19	#12 タチアナ カルデロン 1'33"227



## 決勝レース

午後2時15分に決勝レースがスタートした。今回は変則スケジュールを受けて決勝レース距離は35周(168.035km)に短縮、レース中の給油は禁止でタイヤ交換義務は設けないという特別規則が適用された。

レース前に1台が出走を取りやめたのでカルデロンは18番手ポジションからスタート、最後尾で慎重にレースを開始、トップ争いからは約0.5秒遅れとなる1分37秒後半のタイムで周回を始めた。チームは、1分37秒後半から38秒にかかる程度のラップタイムならば、レース中盤に敢えてタイヤ交換を行った方がトータルの走行時間が短くなるのではないかと考えていた。

トップ15周目、カルデロンの前方を走っていたNo.15 笹原右京選手がタイヤ交換のためピットインし、コースに復帰したところペースが上がったのを確認したチームは、カルデロンのラップタイムが10周目を過ぎて1分38秒台へ低下してきたことも考え合わせ、17周終了時点でタイヤ交換のためピットインするようカルデロンに指示した。

カルデロンは指示を受けてピットイン、フレッシュタイヤへ交換をしてコースに復帰すると、1分36秒台のラップタイムで走り始めた。

コースに復帰した時点でカルデロンのポジションは最後尾16番手だったが、その後ピットインしたりレースから脱落したりする選手が現れ、ポジションは徐々に繰り上がり21周目には12番手まで繰り上がった。

レース終盤、ピットインして遅れていたNo.5 山本尚貴選手が猛然と追いついてきた。最終ラップの90度コーナーではカルデロンのインに飛び込んできたがカルデロンはこれを押さえ込み、わずかに接触しながらもポジションを譲らず最終コーナーを駆け抜け、12位でチェッカーフラッグを受けた。

第2戦は9月26日～27日、岡山国際サーキット(岡山県)で開催予定だが、カルデロンは前週にル・マン24時間レース出走を予定しており、新型コロナウイルス感染防止に伴う入国管理次第では再び入国に難航する可能性もある。

## ドライバーコメント

今年の私にとってスーパーフォーミュラ出場は最大の目標でしたが、日本に入国できるかどうかの不安はありました。でもとにかくスーパーフォーミュラのためにハードなトレーニングを続けて準備をしていました。初めてのもてぎはとても暑かったし、SFはFIA-F2と比較するとやはりずいぶん異なるカテゴリーでした。F2はタイヤのマネージメントを考えるとプッシュし過ぎが良くない結果を招く場合もありますが、SFはスタートからフィニッシュまで全力でプッシュし続けなければなりません。身体にかかる負荷もずっと大きく、ちょっとした気を抜いたらダメというレースだと感じました。もちろん、自分にもチームにもいろいろな点で改善していかなければならない課題も見つかりました。

ラストラップは、もちろん元チャンピオンだからといって山本選手に譲る気は全くありませんでした。お互い戦っているわけですから。でも彼は非常にフェアに走ってくれました。次はもっと良いレースができると思います。まずはQ2に進むのが課題で、レースではポイントが獲得したいです。ただル・マン24時間レースに出場する予定なので、その影響で入国できない可能性があります。なんとかして日本へ帰ってくるつもりです。



## レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	20	平川亮	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	56'35.530
2	3	山下健太	KONDO RACING	56'36.140
3	4	Sacha Fenestraz	KONDO RACING	56'38.861
4	36	中嶋一貴	VANTELIN TEAM TOM'S	56'43.086
5	6	福住仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	56'46.709
6	1	Nick Cassidy	VANTELIN TEAM TOM'S	56'55.459
7	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	57'02.460
8	38	石浦宏明	JMS P.MU/CERUMO・INGING	57'03.384
9	64	牧野任祐	TCS NAKAJIMA RACING	57'13.560
10	14	大嶋和也	ROOKIE Racing	57'15.027
11	15	笹原右京	TEAM MUGEN	57'16.194
12	12	Tatiana Calderón	ThreeBond Drago CORSE	57'38.067
13	5	山本尚貴	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	57'38.209
14	7	小林可夢偉	carrozzeria Team KCMG	57'38.800
15	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	57'20.833
DNS	18	国本雄資	carrozzeria Team KCMG	—
DNS	19	関口雄飛	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	—
DNS	39	坪井翔	JMS P.MU/CERUMO・INGING	—
19		#N/A		



**HONDA**

**YOKOHAMA**

**BANDERO**  
DRINK RESPONSIBLY

**KÖE**



**KS Material Co.**

**NGK**  
SPARK PLUGS

**QMI**  
beyond the invisible

**3M**

**in KAJIMA**

**FUJI XEROX**  
富士ゼロックス多摩株式会社

**idemitsu**

**Swift**  
Spartan

**ODYSSEY**  
Ultimate Partner

**KRS**  
KTEL RACE SERVICE

**WPC**  
METAL SURFACE TREATMENT

**SHIBA**  
Performance Parts

**TONE**

**SP**  
SP AIR

**D.B.P.**

**リボバンド**

**BOSS**  
COFFEE

**STRASSE**  
RACING

**DESCENTE**

**PATRICK**

## Drivers Ranking

順位	ドライバー	1	2	3	4	5	6	7	合計	点差
		もてぎ	岡山	SUGO	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士		
1	平川亮	3+20							23	—
2	山下健太	1+15							16	7
3	Sacha Fenestraz	2+11							13	10
4	中嶋一貴	8							8	15
5	福住仁嶺	6							6	17
6	Nick Cassidy	5							5	18
7	野尻智紀	4							4	19
8	石浦宏明	3							3	20
9	牧野任祐	2							2	21
10	大嶋和也	1							1	22
∴										
	Tatiana Calderon	0							0	23

\*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

## Team Ranking

順位	チーム	1	2	3	4	5	6	7	合計	点差
		もてぎ	岡山	SUGO	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士		
1	KONDO RACING	26							26	—
2	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	20							20	6
3	VANTELIN TEAM TOM'S	13							13	13
4	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6							6	20
5	TEAM MUGEN	4							4	22
6	JMS P.MU/CERUMO・INGING	3							3	6
7	TCS NAKAJIMA RACING	2							2	
8	ROOKIE Racing	1							1	
∴										
#	ThreeBond Drago CORSE	0							0	26
